

受入大学名	筑波大学		
Host University	University of Tsukuba		
外国人研究者	ウー チューフェイ		
Foreign Researcher	WU, CHUN-HUI		
受入研究者	柿澤 敏文	職名	教授
Research Advisor	Kakizawa Toshibumi	Position	Professor
受入学部/研究科	人間系障害科学域		
Faculty/Department	Human Sciences/ Division of Disability Sciences		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	台湾
Nationality	Taiwan
所属機関	國立臺北教育大學
Affiliation	National Taipei University of Education
現在の職名	副教授
Position	Associate Professor
研究期間	2023年07月03日 ~ 2023年09月04日 (64日間)
Period of Stay	64 days ( Jul. 03, 2023 -Sept. 04, 2023)
専攻分野	特別支援教育学
Major Field	Special Needs Education



筑波大学で柿澤教授と研究協議  
Research Meeting with Prof. Kakizawa at University of Tsukuba

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

<b>①研究課題 / Theme of Research</b>
「インクルーシブ教育の潮流における日本の視覚障害教育の専門性の維持と継承」  インクルーシブ教育が世界の潮流になり、視覚障害児童生徒に対する教育の在り方が少しずつ変化している。日本は2007年に特殊教育から特別支援教育に制度を移行し、この潮流に乗りながらも、視覚障害教育に関しては長年蓄積してきた様々な知見とノウハウを慎重に守り、これらが地域に学ぶ視覚障害児童生徒を支援する大きな力になっている。台湾の視覚障害教育はインクルーシブ教育の潮流に乗っているが、専門性や関係機関との連携等に新たな課題が見られている。本短期研究では、日本が蓄える視覚障害教育の専門性に関する知見や取組を実地に具体的に把握することを通して、インクルーシブ教育の流れの中で今後、視覚障害教育の専門性をどのように維持し、継承していくかについて検討する。
<b>②研究概要 / Outline of Research</b>
日本の代表的な視覚特別支援学校と、通常学校に在籍する弱視児童生徒を対象に支援を行う弱視通級指導教室を訪問し、実際の授業と教育支援場面を見学するとともに、各学校の教育環境、教材の整備状況、視覚障害教育に関わる活動及び指導上の配慮等について具体的な状況を把握する。加えて、高等教育段階における視覚障害学生支援状況とその実際について、視覚障害者・聴覚障害者のための大学である筑波技術大学を訪問・見学して把握する。これらの教育機関の関係教員らを対象として、インクルーシブ教育の流れの中で地域で学ぶ視覚障害児童生徒に対する専門的な教育支援の取組と配慮事項等に関わる聞き取り調査を行う。 さらに、台湾のインクルーシブ教育及び視覚障害教育の現状と発展の経緯を日本の研究者・教育者と共有し、新しい時代におけるより専門的かつ合理的な在り方を意見交換や議論を行う。
<b>③研究成果 / Results of Research</b>
・日本唯一の国立の筑波大学附属視覚特別支援学校と、東京都で最も在籍児童数が多い世田谷区立笹原小学校弱視通級指導教室の授業場面等を見学し、両校の校長と教諭らと意見交換した。 ・視覚・聴覚障害者のための大学である筑波技術大学を見学し、高等教育段階の障害学生支援状況を把握した。 ・上記の教育組織の関係教諭ら10名を対象に地域で学ぶ視覚障害児童生徒への専門的支援の取組と配慮の聞き取り調査を行った。 ・筑波大学障害科学域等による学術講演会と、筑波大学附属視覚特別支援学校主催の講演会において、台湾のインクルーシブ教育及び視覚障害教育の現状と発展について講演を行った。 ・第61回日本特殊教育学会（横浜国立大学）に参加し、視覚障害教育に関わる日本全国の研究者等との研究交流を行った。 これらの成果として、台湾と日本の特別支援教育・視覚障害教育の現状の相互理解や今後の国際的な交流の展望が得られた。
<b>④今後の計画 / Further Research Plan</b>
今後の計画は以下のように考えている。 1. 本研究課題の実施で得られた情報やデータに関する分析・検討を帰国後に引き続き受け入れ研究者と共同で継続するとともに、発展研究の実施を構想する。 2. 日本の視覚障害教育における視覚特別支援学校等の関係機関によるセンター的機能の実際について台湾の状況との比較・検討を行う。 3. 得られた研究成果は関連分野の学術雑誌や国際会議等で公表する。 4. 台北教育大学特殊教育学系と筑波大学人間系障害科学域の間の研究・教育交流（教員・学生）の実現に向けた連絡協力を行う。 5. 筑波大学附属視覚特別支援学校と台北啓明学校との学校間交流の実現に向けた連絡協力を行う。

## <受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

### ①研究課題 / Theme of Research

「インクルーシブ教育の潮流における日本の視覚障害教育の専門性の維持と継承」  
学術的「問い」として、日本の特別支援教育から「特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室などの特別な学びの場が必要とされる視覚障害幼児児童生徒の教育ニーズや障害特性は何なのか？」を、台湾の特別支援教育から「インクルーシブ教育システムにおいて、通常の学校が学びの場である際に考慮すべき視覚障害幼児児童生徒の教育ニーズや障害特性は何なのか？」を掲げ、日本と台湾の比較教育学的研究を推進し、彼らが秘める能力を最大限導き出す視覚障害教育の専門性の維持と継承を可能とする教育システム構築に寄与する研究を推進する。日本・台湾両国の視覚障害教育の今後の在り方への提言はもとより、世界の視覚障害教育の今後の発展をもたらす研究の端緒と位置付けている。

### ②研究指導概要 / Outline of Research

- ・日本からの問い（①研究課題参照）に関して、日本の代表的な視覚特別支援学校と弱視通級指導教室、視覚障害学生対象の高等教育を行う大学を訪問・見学し、各学校の幼児児童生徒等の状況の把握を計画した。
- ・台湾からの問い（①研究課題参照）に関して、インクルーシブ教育の中で地域で学ぶ視覚障害児童生徒への専門的な教育支援の取組と配慮等の在り方に関する面接調査を計画した。データ分析にテキストマイニング法を紹介した。
- ・「台湾のインクルーシブ教育及び視覚障害教育の現状と発展」がテーマの筑波大学障害科学域/大学院障害科学学位プログラム/障害科学類共催の学術講演会の計画と、附属視覚特別支援学校主催の学術講演会開催の協力を行い、大学教員と学生、校長と教諭との情報共有と意見交換の機会を設けた。
- ・視覚障害教育に関わる日本の研究者等との研究交流として、第61回日本特殊教育学会への参加を促した。

### ③研究指導成果 / Results of Research

- ・日本からの問い（①研究課題参照）に関わり、日本唯一の国立の筑波大学附属視覚特別支援学校と東京都で在籍児童数が最も多い世田谷区立笹原小学校弱視通級指導教室、視覚・聴覚障害者のための大学である筑波技術大学を視察し、情報収集を行った。
- ・台湾からの問い（①研究課題参照）に関わり、上記の教育組織の関係教諭ら10名を対象に面接調査を実施した。現在データ分析中で、今後、研究知見を関連学術雑誌や国際会議等で公表予定である。
- ・外国人研究者が講師を担当し、「台湾のインクルーシブ教育及び視覚障害教育の現状と発展」と題して大学教員と院生・学生/附属視覚特別支援学校校長・教諭を対象とした2つの学術講演会が開催された。講演後の質疑応答により日本・台湾両国の特別支援教育の現状・未来について知識共有した。
- ・第61回日本特殊教育学会に参加し、視覚障害教育に関わる日本の研究者等との研究交流を行った。

### ④留学生交流事業の活動状況 / Activities of International Student Exchange Program

申請時に記載した活動が完了した。

- 1) 訪問機関：日本の代表的な視覚特別支援学校である筑波大学附属視覚特別支援学校訪問（7月11日、24日、28日、31日）。東京都で在籍児童数が最も多い世田谷区立笹原小学校弱視通級指導教室訪問（7月13日、25日）。視覚・聴覚障害者のための大学である筑波技術大学訪問（7月21日）。
- 2) 講演・討議：筑波大学障害科学域/大学院障害科学学位プログラム/障害科学類共催の特別講演会演者（7月20日）。筑波大学附属視覚特別支援学校主催の特別講演会演者（8月30日）。日本特殊教育学会第61回大会（横浜国立大学）参加・発表（8月25～27日）。
- 3) 交流：日本の特別支援教育の将来を担う筑波大学大学院障害科学学位プログラム博士前期・博士後期院生との研究交流（7月20日）。

### ⑤今後の計画 / Further Research Plan

今後の計画は以下の通りである。

- 1) 本研究課題の実施で得られた情報やデータに関する分析・検討を外国人研究者の帰国後も継続し、関連分野の学術雑誌や国際会議等で公表するとともに、発展研究の実施を構想する。
- 2) 今後の国際共同研究の端緒として本研究課題の成果を位置付け、日本の大学研究者等との研究プロジェクト立案も構想し、国際共同研究を推進する。
- 3) 国際共同研究の一つとして、日本の視覚障害教育においてセンター的機能を果たしている視覚特別支援学校・弱視特別支援学級・弱視通級指導教室等の実際について台湾の状況との比較研究を推進する。
- 4) 筑波大学人間系障害科学域と台北教育大学特殊教育学系との間の研究・教育交流（教員・学生）の推進に向けた連絡協力を行う。



日本特殊教育学会第61回大会にて



筑波大学で講演